

り住み慣れた地域で暮らしていた
だくためには、一人一人の心身の
状態や置かれている家庭環境等に
応じた適切できめ細かな支援を受
けられることが不可欠であり、そ
のためには、支援を行う介護・福
祉といった各分野のサービス提供
基盤の充実が必要です。とりわ
け、介護人材については、人口減
少、少子高齢化が一層顕著になる
と推計されている令和22年には人
材不足によりサービス提供に深刻
な影響を与えることが懸念されて
おります。介護保険制度の運営
は、安定的な介護サービス提供体
制が基盤となるため、行政と介護
事業者が共に対策を考え、介護人
材の確保や定着を図る取組を進め
てまいります。

このように、この地域で安心し
て暮らし続けられるよう、将来に
わたり医療・介護サービスが提供
できる体制を堅持することを基本
とし、在宅生活支援や介護施設の
充実を図るとともに、医療機関と

介護施設との連携を強化し、地域
包括ケアシステムの更なる深化を
進めてまいります。

少子高齢化が進み、核家族が
増え、人との関わりの希薄化が進
んでいる社会だからこそ、年齢や
性別、障がいの有無などにかかわ
らず、人と人同士がつながり合い、
それぞれの人格や個性を尊重し合
い、支え合える共生社会の実現が



強く望まれます。一昨年度制定し
た「三条市障がいのある人もない
人も共に自分らしく暮らすための
まちづくり条例」を基に、多様性へ
の受容と寛容のある共生社会への
転換に向け、*「ツナガル」プロジェ
クトを通じ、地域全体での気運を
醸成してまいります。

④ 持続可能なまちづくり ～将来も持続可能な

三条へ～

これまで私たち三条市では、「ま
ちなか」と呼んでいる中心市街地
は「まちやま」と「たいぶん」を核
に、人々が出掛けなくなる活気あ
る多彩な交流を生み出すエリアと
して、「栄地域」は栄スマートイン
ターチェンジに近接した工業流通
団地を有する生産と流通の拠点と
なるエリアとして、また、「下田地
域」はアウトドアのまち三条の中
心地とし、大自然の中でアウトド
ア・アクティビティが楽しめるエ

リアとして位置付けるなど、それ
ぞれの地域の魅力を生かしたまち
づくりを進めてまいりました。そ
の中で、上越新幹線の停車駅であ
る燕三条駅の周辺については、北
陸自動車道の三条燕インターチェ
ンジ、道の駅燕三条地場産セン
ターもあることで、私たち三条市
の玄関口としての機能を果たして
おります。近年では、新たに三条市
立大学や済生会新潟県央基幹病院
も加わり、商業施設も含め多様な
都市機能を備えた地域へと変わり
つつあります。市全体の人口が減
少する中で、燕三条駅周辺を含む
須頃地区の人口は増加傾向にあ
り、今後、まだまだ伸びしろのある
この地区を更に魅力あるエリアと
していくことが、私たち三条市の
魅力向上にも寄与することから、
今後のあるべき地域づくりについ
て検討を始めてまいります。

さらに、下田地域では、国の事業
決定から40年を迎えようとしてい
る大事業である国道289号八十

里越について、遂にその開通時期
が令和8年秋から令和9年夏と具
体的に示されました。開通により、
三条市へのアクセスが大きく改善
し、福島県側から三条市を訪れる
方が増加すると見込まれることか
ら、このエリアも三条市の玄関口
として重要な機能を担っていくこ
ととなります。この好機を見据え、
下田地域の魅力を更に高め、開通
後に三条市が単なる通過点となる
ことなく多くの方々に訪れていた
だくため、いい湯らていと道の駅
漢学の里しただのリニューアルを
進めてまいります。

クを軽減し、市民の皆様が安心し
て暮らせる環境を整備するととも
に、関係団体の御協力もいただき
つつ、災害発生時の体制強化を図

るなど、水害や地震を始めとする
各種災害に強いまちづくりを更に
進めてまいります。

⑤ 道路インフラの整備

～「道づくり」を

「まちづくり」につなげる

三条へ～

道は、買い物や通勤通学、通院な
どの日々の暮らし、物流を始めと
した経済活動、さらには、救急搬送
時や災害時など皆様の命を左右す
る局面、これらの全てにおいて、重
要な役割を担っております。これ
まで申し上げてきた様々な政策の
実現のみならず、私たち三条市の
持つ魅力の更なる強化のために
は、安全で快適な道路環境の構築
を避けて通ることはできません。

また、三条市のどこにいても安
心できる環境づくりも重要です。
「観測史上初めて」というフレーズ
を毎年聞くように、昨今の気候変
動に備えていくためには、これま
での防災対策に満足せず、これか
らも万全を期していかなければな
りません。想定されるリスクを踏
まえ、雨水調整池の整備等を更に
積極的に進め、降雨時の水害リス



正に「道づくり」は「まちづくり」に
直結します。特に、長年の課題と
なっている慢性的な交通渋滞の
解消に向けた取組については、強
く推進していかなければなりま
せん。

この課題の要因となっている特
定の路線に集中した交通量を広く
分散させるためには、今後想定さ

*「「ツナガル」プロジェクト」障がいを始めとする多様性への受容と寛容のある社会への転換に向けたプロジェクトのこと。